



5:1 さて、モーセはイスラエル人をみな呼び寄せて彼らに言った。聞きなさい。イスラエルよ。きょう、私があなたがたの耳に語るおきてと定めとを。これを学び、守り行ないなさい。

5:2 私たちの神、主は、ホレブで私たちと契約を結ばれた。

5:3 主が、この契約を結ばれたのは、私たちの先祖たちとではなく、きょう、ここに生きている私たちひとりひとりと、結ばれたのである。

5:4 主はあの山で、火の中からあなたがたに顔と顔を合わせて語られた。

5:5 そのとき、私は主とあなたがたの間に立ち、主のことばをあなたがたに告げた。あなたがたが火を恐れて、山に登らなかったからである。主は仰せられた。

5:6 「わたしは、あなたをエジプトの国、奴隷の家から連れ出した、あなたの神、主である。

5:7 あなたには、わたしのほかに、ほかの神々があってはならない。

5:8 あなたは、自分のために、偶像を造ってはならない。上の天にあるものでも、下の地にあるものでも、地の下の水の中にあるものでも、どんな形をも造ってはならない。

5:9 それらを拝んではならない。それらに仕えてはならない。あなたの神、主であるわたしは、ねたむ神、わたしを憎む者には、父の咎を子に報い、三代、四代にまで及ぼし、

5:10 わたしを愛し、わたしの命令を守る者には、恵みを千代にまで施すからである。

5:11 あなたは、あなたの神、主の御名を、み

だりに唱えてはならない。主は、御名をみだりに唱える者を、罰せずにはおかない。

イスラエルが新しい地、約束に地に住もうために、何よりも必要なことは神の御心を行うということです。その教えである十戒を守ることがその基本になります。この十戒はまた「契約」でもあります。それを守るなら、神は祝福してくださるが、背くなら守りはなくなるといことです。

その十戒は「火の中からあなたがたに顔と顔を合わせて語られた」ものであって、神の権威と力が伴うものです。私たちはこれを正しく怖れて、従う必要があります。

イスラエルはこの戒めを守ることができませんでした。それは全人類に共通です。その結果としての滅びからは、誰も救うことができず、ただイエス様の身代わりだけが、赦しと救いの道となるのです。

ですから私たちは、この十戒を守るとともに、守りきれない自分自身を潔く認め、主イエス様の救いに感謝するのです。救いの必要と感謝のためにもこの十戒は大切なものです。

十戒の何よりも一番は「わたしのほかに、ほかの神々があってはならない。」という命令です。それは当然、偶像礼拝への戒めとなります。見えるもので偶像礼拝をするクリスチャンはまずいないと思いますが、聖書には”…このむさぼりが、そのまま偶像礼拝なのです。”と書かれています。自分の欲望を神様の上に置いていないか、考えてみましょう。

また「あなたの神、主の御名を、みだりに唱えてはならない。」とあります。神様の権威ある名を自分の都合のために用いてしまうことがないか、考えてみましょう。信仰的に見せかけて、実は自分のためでやっていないかということです。そこは誰もがさらに純粋になってゆくべきところでしよう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

